

SDGs と 人権教育



- ◎ SDGsって、どんなもの？
- ◎ SDGsの達成と人権教育
- ◎ SDGsと人権学習を結び付ける
- ◎ SDGsに学校でどう取り組むか

SDGsについて、知っていますか？

持続可能な開発目標（SDGs）とは、**17の目標と169のターゲット**（各目標の達成のために取り組む具体的な目標）から構成される、「世界の共通の目標」であり、「未来の世界のかたち」です。

SDGs… Sustainable Development Goal
 持続可能な 開発 目標



1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくばない、つかうを減らし、リサイクルしよう
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリーシップで目標を達成しよう	

SDG 1. 貧困をなくそう SDG 2. 飢餓をゼロに SDG 3. すべての人に健康と福祉を SDG 4. 質の高い教育をみんなに SDG 5. ジェンダー平等を実現しよう SDG 6. 安全な水とトイレを世界中に SDG 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに SDG 8. 働きがいも 経済成長も SDG 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	SDG 10. 人や国の不平等をなくそう SDG 11. 住み続けられる まちづくりを SDG 12. つくる責任 つかう責任 SDG 13. 気候変動に具体的な対策を SDG 14. 海の豊かさを守ろう SDG 15. 陸の豊かさを守ろう SDG 16. 平和と公正をすべての人に SDG 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
---	---

世界の危機を解決するSDGsの達成のために

SDGsは、20世紀後半に世界中で「環境問題」「貧困」「格差」の問題などが明らかになり、このままでは地球が立ち行かなくなるという危機感から、2015年に国連で採択された世界目標です。課題解決のためには「地球に住むすべての国や地域、人々が取り組む必要がある」とし、その解決は急を要するものであることから、**目標達成期限を2030年まで**としています。

SDGsの内容は、どれも「人が生きること」と関連しており、**人権尊重の考え方**がなければこれらの課題を解決できません。また、様々な立場により利害の対立も起こることから、一つの立場から考えるのではなく、**多様な立場の意見を聞き取り尊重し合うこと（パートナーシップ）**で、誰にとってもよりよい未来を創るために行動することが必要とされています。学習指導要領の前文にも「持続可能な社会の創り手となることができるように」という文言が入り、各教科学習などにおいてもESD※に関連する内容が盛り込まれているなど、各学校園で取り組みが必要とされています。

※Education for Sustainable Development = 持続可能な開発のための教育

1. SDGsについて知る

SDGsの重要な理念

キーワード①「世界を変革する」

SDGsの個々の目標が記された「2030アジェンダ」※のタイトルに「**我々の世界を変革する**」とあります。SDGsが提示する未来の世界のかたちと現在の世界の姿とは大きなギャップがあります。これを埋めるためには、社会の仕組みを変えようという大胆な変革が不可欠です。

例えば、増大する世界人口を限りある資源で支えるために、個々人が考え行動を起こすことも大切ですが、同時に、世界規模で様々なシステムや社会の在り様を変革されなければ、解決は望めません。

このように、今ある社会の変革なきところに持続可能な世界はありません。「**世界の変革**」は、**SDGsを下支えする大事な理念の1つ**です。

※正式には「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」という文書で、2015年に国連で採択された。この中でSDGsが提示されている。

キーワード②「誰一人取り残さない」

SDGsを貫くもう一つの理念は「**No one will be left behind (誰一人取り残さない)**」です。

これまで日本を含めた世界は、取り残されがちな弱い立場の人々に十分に焦点を当ててきませんでした。しかし、SDGsは、誰かを取り残したり、その犠牲のもとに達成したりするゴールはあり得ないという考えに立っています。

「取り残されがちな人々」とはどのような立場の人々でしょうか？ 日本においては、女性、子ども、高齢者、障がい者、同和問題（部落差別）、在日外国人、性的マイノリティ等の人権問題があり、これらの問題と関わりのある人々がいます。その人々の思いや考えを尊重し、ともに、SDGsの実現を図るために行動していくことが重要です。

Q&A ～もっと知ろうSDGs～

Q. 「持続可能な開発」ってどういう意味？

A. 将来の世代のために、危機的な状況にある環境や資源を壊さずに、地球ですべての人々が共存し続けられる形で、今の世代の人々の生活もよりよい状態に発展させようとすることです。

Q. SDGs以前には、世界で何も取り組んでこなかったの？

A. 「MDGs（ミレニアム開発目標）」を立て、2000年から15年間、様々な課題に取り組み、一定の成果がありました。「MDGs」が途上国中心の目標とされたのに対し、SDGsは、先進国と途上国が一丸となって取り組むべき全世界共通の目標として設定されました。

Q. 取り組む主体は国や企業では？ 個人に何かできるの？

A. 世界全体で大きな変革を必要とするため、国際機関、政府、自治体、企業等が主体的に取り組むことはもちろんです。一方、個々人が今の生活を続けることで別の人々（未来の世代を含めて）の暮らしを犠牲にしている状況があるならば、それは「誰一人取り残さない」というSDGsがめざす世界のかたちではありません。そのことに気づき、個々人が身近な場で目標達成のために行動し、周りに働きかけ、変革を促すことで大きな力とすることができます。社会を変えるとは、私たち一人ひとりが変わることなのです。

Q. 日本国内にはどんな課題があるの？

A. SDG 1「貧困」では、子どもの貧困率が13.5%（2018年）であること、また、SDG 5「ジェンダー平等」では、ジェンダーギャップ指数が151か国中121位（2020年）で、特に政治的分野で女性の社会進出が阻まれている等、様々な課題が指摘されています。

子どもたちにとってのSDGs

SDGsがめざす2030年に、今の子どもたちはどう生きているのでしょうか？

子どもたちにとっては、2030年はすぐ先の未来であり、子どもたちがこれから生きていく世界がどうなるのかという切実な問題です。

2018年8月、当時15歳のグレタ・トゥーンベリさんが、大人が効果的な地球温暖化対策を取らないことへの抗議行動として、スウェーデンの国会前で3週間の座り込みを行いました。

「『将来のために勉強しなさい』と言われても、このまま気候変動が進めばまともな未来はない」とグレタさんは言います。このように**子どもたちにとって、SDGs達成は生存条件である**のです。

SDGsがめざす世界は、「子どもたちに投資し、すべての子どもが暴力や搾取から解放される世界」です。

その一方で、子どもたちは、重要な変革を起こす主体、**未来の社会の「創り手**」となることを期待されているのです。

2. SDGsの達成と人権教育

SDGsにおいて教育は重要課題

SDG 4は「質の高い教育をみんなに」という教育に関するゴールです。日本ユネスコ国内委員会（2017年9月）において、「教育が全てのSDGsの基礎である」とともに、「全てのSDGsが教育に期待している」とも言われ、大変重要な課題であることが明記されています。

右図出典：「学校等でESDを実践されている皆様へのメッセージ（日本ユネスコ国内委員会教育小委員会より）」（文部科学省）（<http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/message.html>）



SDGsの達成に、人権教育が不可欠

SDG 4の7つめのターゲット（SDGs4.7）に、SDGsの達成のために取り組むべき教育として、ジェンダー平等教育、平和教育、グローバル市民教育、多文化共生の教育、持続可能な開発について考える教育（ESD）が挙げられています。これらは、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念と深い関係があります。

「誰一人取り残さない」世界をめざすには、取り残されがちな人々は誰なのか、どのような状況なのかを理解する必要があります。また、

取り残されがちな人々がエンパワメントされることも必要です。これがSDGsの達成のために取り組むべき教育でめざされているのです。

これらの教育内容は、SDGsが提唱される以前から、厳しい状況にある子どもたちの生活や思いを出発点に、さまざまな人権問題の解消をめざして推進されてきた、大阪の人権教育そのものです。

つまり、**SDGsの真の達成のためには、人権教育に取り組むことが不可欠**なのです。

3. SDGsと人権学習を結び付ける

SDGsと関連させた学習に取り組む際に、日常生活と切り離されてしまい、表面的な理解に留まり、主体的な行動につながらないまま活動が終わってしまう場合があります。身近な課題と結び

付け「自分ごと」として捉え、深めるためにはどうすればよいのでしょうか。2つの例で考えてみましょう。

事例1 SDG1「貧困をなくそう」で考える

子どもたちが「世界にはこんなにつらい状況にある子どもがいる、日本ではそんなことないよね」と考えている場合があります。このままの認識で「誰一人取り残さない」ための解決に向かえるでしょうか。

ひとり親家庭で経済状況が厳しく、学校に通い続けることができるかに悩む、貧困問題が切実な課題である子どももいます。

子どもたちがそのことに気付けるようになるためには、日本の国内にも貧困問題があることや、女性とりわけシングルマザーではその傾向が顕著になること等を考える人権学習が必要です。

貧困状況にある子どもが「自分の家族のせいではなく、社会の課題である」と自覚し、思いを語り、周囲の仲間がともに考えることができ初めて、貧困の問題を「自分ごと」として考えることにつながっていきます。ある府立高校では「反貧困学習」として、このように厳しい状況にある子どもをエンパワメントする取り組みが営まれています。

事例2 SDG5「ジェンダー平等を実現しよう」で考える

日本にはジェンダー平等に関して様々な課題があります。子どもたちが学習する際、ジェンダーギャップ指数等を根拠に、日本の不平等な現状を知り、「ジェンダー平等な社会を実現しなければならぬ」と結論づけて、そこで学習が止まってしまう場合があります。

しかし、この問題を「自分ごと」にするためには、子どもたち一人ひとりの中にあるジェンダー意識を見つめることから始めなければなりません。「男だったら…じゃない」「女の子は…してはいけない」など、周りの大人や社会から影響を受けて、子どもたち自身が固定的な性別役割分担意識を持っていることがあります。自分の中にある偏見や差別意識に気付くことで学習が深化します。

また、学習を促す側の教職員も、学校の中に不要な男女分け（呼称、色分けなど）がないか、絶えず確認する必要があります。教職員も自分の「当たり前」を問い直さなければなりません。

様々な人々との出会いを通して

解決のプロセスを考える際に、「この方法で、取り残される人はいないかな?」「取り残されがちな人はどう考えるだろう、その思いを聞きたいな」と、

常に考え、つながろうとする力を育むことが大切です。そこから、様々な立場の人々と出会い、協働する学習と人権学習を有機的に結びつけることで、より深い学びにしていけることができます。

4. SDGsに学校でどう取り組むか

子どもたちが主体的にSDGsに取り組んだ大阪府内の実践を紹介します。

【小学校】学年最後の料理パーティ

子どもたちが学年で「料理パーティ」を開催

活動の流れ

- ①調べ学習1（食材や世界の料理について）
- ②料理に使う米や野菜を育てる
- ③調べ学習2（貧困、食品ロス問題、日本の自給率等）
- ④テーマを深める（地産地消、戦争中の食事、食糧の輸出入、フェアトレード、児童労働等）
- ⑤料理のメニューを決定
最もエシカル（人や社会、地球環境に配慮した倫理的に正しい）な料理は何かと考える
- ⑥食材を買い、調理し、料理パーティを開く

取組みを通して

子どもたちが世界の課題を自分たちと関係のある身近な問題と認識し、自らの生活の在り方を見直すことにつながった。

【中学校】SDGsを手がかりに持続可能な社会を

子どもたち主体でSDGsサミットを開催

活動の流れ

- ①個人でテーマを設定、グループで話し合う
- ②解決のためのアクションプランを作成
- ③アクションプランに基づき、行動、発信
- ④校内でSDGsサミット開催
専門家や地域の方にプロジェクト内容を発表（テーマ）給食の食品ロスを減らす、環境を守る、LGBTQの権利、貧困をなくす、節電等

取組みを通して

子どもたちが課題を理解しても、解決までの道のりの遠さを感じ、ジレンマに陥る場面もあった。しかし、社会で活躍する「素敵な大人」と出会い、協働する中で、自己の生き方に展望を持てるようになった。

【高等学校】課題研究や探究の取組み

身近な課題とSDGsとを結び、生徒自身が研究し、論文にまとめ、発信した取組み。

活動の流れ

- ①1年間探究する、関心のある課題を1つ選ぶ
- ②現状・課題を把握し、解決策を考え、提案する
- ③論文にまとめる
- ④校内研究発表会で全員発表
（研究テーマ例）

「出産後女性が復帰しやすい環境をどうつくるか」
「どうすれば子育てから親の暴力がなくなるのか」
「災害発生時に外国人が取り残されないためには」
「高校生のネットいじめはなぜなくなるのか」

取組みを通して

生徒たちに国際的課題についての多面的な観点と深い理解や他者と連携・協調しつつ探究する力を養うことにつながった。

【支援学校】環境を大切にするための取組み

- 牛乳パックを再利用し、ハガキ等を作成
- 生徒会がペットボトルキャップを回収し、リサイクル
- 給食で全国各地の料理献立があり、世界や日本全国を知るきっかけに
- 畑で野菜を育て、調理実習で調理し試食
- 新聞紙を使ったエコバックづくり

取組みを通して

子どもたちはゴミを分別する意義等を理解し、家庭でも環境問題を意識しながら生活するようになった。

SDGsにつながる大阪府の取組み



「万博学習読本『ジュニアEXPO2025』」
（小学校版・中学校版 令和2年9月）

2025年に開催される大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、SDGs達成への貢献をめざしています。

その取組みの一環として、教育プログラム『ジュニアEXPO2025』を実施しています。当プログラムは、専用教材『万博学習読本』を用いて、万博やSDGsに対する理解を深め、子どもたち自らが課題を発見し、それらを解決するためのアイデアを考え、学んだ成果を発表するものとなっています。

大切にしたいポイント

1 何より大切にするのは、子どもの意見や考え

SDGsの課題は、どれも安易な正解はありません。子どもたちがアイデアを考える際に、間違いを恐れる必要がないと伝えましょう。また、**子どもたちは解決する力がある主体**であることを忘れずに取り組みましょう。

2 社会参画できる実感を持てるように

身近な課題が世界の課題にどう結び付き、世界の課題が身近にどう表れているかを考え、学習者自らの価値観を見つめ直し、**より良い社会づくりに参画する力を育む**ことをめざしましょう。

3 パートナーシップで解決をめざす

様々な場所、機関、人々、資料等と出会い、多くの人の力を借りながら考えをまとめたり、意見を交流したりしながら、**多様な立場の人とともに解決をめざすこと（パートナーシップ）**を大切にしましょう。

令和3年3月
大阪府教育センター
人権教育研究室

参考資料

国連広報webサイト、外務省webサイト、
ユネスコスクール公式webサイト、日本国際博覧会協会webサイト